

教科 生 活

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 子どもが自ら考え判断し決定する資質や能力が育つように、2年間を見通した指導計画に改善する。	◎ <b>幼児教育との接続の観点から、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を組織的に行う。</b> ○ 学習の対象と繰り返しかかわることができる指導計画を作成する。 ○ 時間的・空間的・心理的なゆとりを大切にし、子どもがじっくり活動できて、気付きの質が高まる多様な学習活動を取り入れた指導計画を工夫する。
指導の工夫	○ 子どもが対象とのやりとりを通して、よりよく問題を解決することができるような学習の展開と過程を重視する。	○ 学習の対象との情緒的なかかわりを重視し、気付きの質を高めて次の活動につなげるようにする。 ○ 子どもが自らの思いや願いを実現し、充実感、達成感、自己有能感、一体感などを感じ取ることができるよう学習活動を工夫する。 ○ 活動を通して獲得した情報を交換する場面や自ら判断し自己決定する場面に授業に位置付ける。
評価の充実	○ 子どもの活動の様子などから、一人一人の思いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。	○ 子どもの活動の様子などから、一人一人の内面、活動や体験の広がりや深まり及びその中の気付きなどの進歩の状況を把握し、次の指導に生かせるように工夫する。 ○ 子どもを多様な方法で多面的、総合的に見取り、一人一人のよさや可能性を把握することに努める。 ◎ <b>子どもの発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して子どもの「思考」をとらえる評価に努める。</b>

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **幼児教育との接続の観点から、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を組織的に行う。**

- ・ 各幼稚園、保育所、認定こども園との連携協力をするとともに、幼児期の遊び体験を単元や授業の指導計画に取り入れる。

【例】 【スタートカリキュラムの作成の手順】

- ① 成長の姿を週や月の単位で明らかにする。
- ② 成長の姿に適合した単元(合科・関連など)を構成し配列する。
- ③ 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。  
(単元や学習活動を週案の形で具現化していくことが有効である。)

※ スタートカリキュラムスタートブック(平成27年1月 国立教育政策研究所)



授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子どもの発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して子どもの「思考」をとらえる評価に努める。**

- ・ 自分のしたことや見たことを絵や言葉などで表現したり、相手意識や目的意識をもって伝え合ったりする場面を設定する。

【例】 子どもなりの思考の流れを生かし、ストーリー性を意識して紙芝居に表現したり、友達に分かりやすく伝えるために、ニュースキャスターになりきって伝えたりするなど、子どものやってみたいことを生かして、多様な方法で表現させる。